

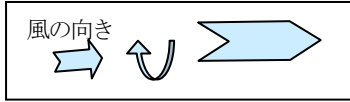
**[四季の風と遊び・・・ウインド&プレイ プログラム]**  
**品川区立平塚幼稚園（東京都品川区）**

幼児が出会う、偶発的なできごとを逃さず、幼児とともに体験をともにし、心の動きを受け止め、科学する心を育てていきたいという願いから、日々の保育の振り返りの中から、幼児が風とであったり、風を感じて遊んだりしている姿をとらえ、それを計画に位置付けるため、「ウインド&プレイ プログラム」作りに取り組んだ。

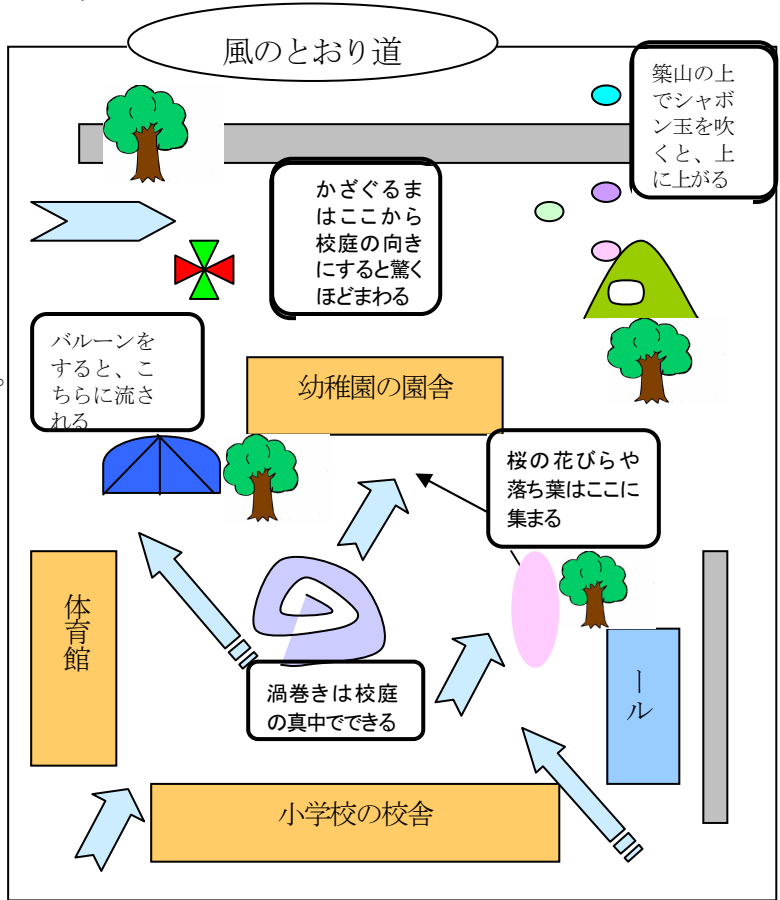
**ウインド&プレイ プログラム 1**

**風のとおり道をさがして**

本園は、小学校と向かい合わせにあり、幼稚園を囲む塀が二方向にしかなく、塀のないところから、また様々な方向から風が吹き抜けていく。そのことを知らず知らずのうちに幼児は体で感じ、その風で遊ぶ。また、学校の校庭は、風が舞い、風が抜けていく。その風と遊びながら幼児は様々な発見をしている。さて、その風はいったいどこから吹き、どこへ抜けていくのか、子どもの発見を通して探してみた。



- \*風は校舎や、塀にあたり、いろいろな方向から吹いてくるようだ。
- \*建物と建物あるいは塀などの間から、風が通り抜けていく。
- \*吹く風と、通り抜ける風がまざって、校庭ではいろいろな方向から風が吹くようだ。



**ウインド&プレイ プログラム 2**

**風の歳時記・・・風と遊び**

日々の保育の振り返りの中で、幼児の遊びと発達の筋道と風とのかかわり、風との遊びを本園の指導計画と照らし合わせながら、今後の保育計画に位置付けた。



	発達の道筋	風	風と遊びの例
	4歳児	5歳児	
春	幼稚園ってどんなところ？	みんなと嬉しい進級できて	春一番 春疾風 花散らし など
	この遊び楽しい、好き	友達と一緒に楽しみたい	シャボン玉 桜のはなびらと ころころ輪っか など
夏	いろいろやってみよう	試したり、挑戦したり、工夫してみたい！	薫風 夏風 など
	友達と一緒に楽しい	みんなの力をあわせたら楽しくなるね いろいろやってみよう	踊るひも くるくるまわる こいのぼり など
秋	幼稚園って楽しい！いろいろなことができる	自分も好き、友達も好き、みんな大好き	野分 台風 など
冬			かさぐるま パルーン 落ち葉と遊ぶ など
			空っ風 木枯らし 風など
			風あげ パラシュート など

## ② 風と遊ぶ子どもたち ―事例を通して科学する心を探る―

5歳児 4月

### 《 事例 1 風さんからのプレゼント・・・偶発的なできごととの出会いから 》

新学期が始まる頃、園庭の桜も小学校の校庭の桜も、満開となり、今か今かと散るときを待っている。時折りはらはらと花びらが舞ってくると、「わー、きれい。」と手を出し、花びらを受け止めている。この時期特有の勢いのある春風（春三番）が吹く。校庭で遊んでいた幼児は、「きゃあ」「すごい」「きれい」と一斉に散る桜の花びらの中で、体いっぱい花びらを受けている。そのうち、A児はかぶっていた帽子で花びらを受け取り始めた。それを見て他の幼児も同じように花びらを受け取り始めた。風がやむと、散る花びらがびたりと止まる。その様子を見て、B児「落ちてこないね。」C児「風さーん、ふいてー。」と言う幼児の声が響いていた。また、桜の花びらが散ってじゅうたんようになっていたところに、勢いのある風が吹き、桜の花びらを吹き上げた。「くるくるまわってる。」「桜がかげっこしてるよ。」「あれって、風のあしあとだよね。」「竜巻になってる。すごい。」と様々に変化する形に興味をもっていった。

#### < 考 察 >

- 「きれい」「すごい」と桜の花びらの様子に気付き、感動している。
- きれいな花びらを集めながら、花びらが落ちてこないことに気付き不思議に思っている。
- 勢いのある風が吹くことで花びらがたくさん落ちてくることに気付いている。
- 風によって変化する桜のはなびらの様子に気付き、感動している。

#### (科学する心)

発見、感動  
疑問  
発見  
発見、感動

#### < 環境と教師の援助 >

- ・幼児の気付きや感動に対して、共感できることが大切であることを感じた。
- ・季節の自然との偶発的なかわりを逃さないようにするために、教師自身が季節とそのときに予測されることを十分に知っておくことが必要である。
- ・このような様子を見たり、体で感じたりできる場と時間を十分に確保することが大切である。

### 《 事例2 まわれまわれ、かざぐるま・・・風をうけて、風の力への気付き 》 [4. 5歳児 9月]

9月には、台風の風とも言えるほどの風が吹く。この風を使って遊ぶことができるものは？と“かざぐるま”を作ることにする。4歳児、5歳児それぞれの育ちの中で楽しめる“かざぐるま”を作ってみた。

4歳児は2つ羽根のかざぐるま(資料参照)で、ぐるん、ぐるんとまわる。これを作って、園庭に行き、かざぐるまを見ながら、そうっと走り出す。「せんせい、まわったよ。」「ほんと、まわったね。」D児はまた走り出す。「うわーい。」「きゃっ、きゃっ。」と言いながらゆっくりと走り、ゆっくりとまわる。築山の上から走り降りたり、すべり台を滑ってみたりと色々な場所でかざぐるまのまわりかたを確かめている。



4歳児のかざぐるま

5歳児は、4つの羽根の“かざぐるま”(資料参照)で、作るのも4歳児のものに比べると難しいが、できあがったときの満足感はあるようだ。自分のかざぐるまができあがると、園庭に出て、まわしてみている。走っている子どももいるが、「風がどっちから吹くか、よく確かめながらやっごらん。」「今は、こっちから吹いてるよ。」など、声をかけ走る方向を知らせると、風に向かって走るようになる。そのうち、「せんせい、ここ、すごいよ、ほらだって走らなくてもまわってる、かざだね、かぜ。」と、風の吹きぬけるほうにかざぐるまを向け、くるくると勢いよくまわっていた。

5歳児のかざぐるまが、走らなくてもまわっていることに気付いて「あれ、あのかざぐるま、走らないのにまわってるよ。」と4歳児がくるくるまわるかざぐるまを見せてもらっていた。

#### < 考 察 >

- 「先生、まわったよ」とかざぐるまがまわることを発見、感動 喜んでいる。
- 走るとまわることに気付いて、ゆっくりとまわることを確かめている。
- いろいろなところでかざぐるまをまわして、まわりかたを試している。
- 風が羽根にあたるとまわることに気付いている。…… 発見
- 強い風が吹くとかざぐるまがよくまわることに……発見、感動、満足 気付き、「すごい。」と感じている。

#### < 科学する心 >

#### < 環境と教師の援助 >

- ・風が吹くことを予測し、4歳児・5歳児それぞれの発達にあった教材を提示することが大切であり、そのことで幼児の興味・関心が増し、遊びが広がる。この事例のかざぐるまでは、幼児がまわり方の違いに気付き、風の力とかざぐるまの羽根の関係に結びついていったのではないかと考える。
- ・走るとまわる、風がふくとよくまわるなどの幼児の発見や感動を共感しながら、さらに次への興味へつながるような働きかけが必要である。
- ・幼児が試したり、気付いたり、繰り返したりする姿をとらえ、受け止めながらやってみよう、どうなるだろうと、自分なりの考えをもっていきつけをつくっていくことが大切なのではないか。

### みどころ

自然現象は、機会を捉えてタイミングよく子どもたちの活動に取り入れられることが大切です。この幼稚園では自然現象の「風」を指導計画に位置づけるために、風に関する環境や予想される幼児の活動を2つの視点から捉えています。そのため、保育者は機会を逃さず子どもと活動を楽しみ、科学する心に結びつく経験を見出すことができます。何気なく例年見られる遊びである「桜の花びらが散る時期の遊び」と子どもたちに経験させたい遊び「風車の遊び」を通して、活動を予測し、保育者が共感できることの大切さ、そして、発達にあった教材の提案の必要性、気付きや興味を引き出し、幼児なりに考えて遊びを展開するための指導の大切さが示されています。